

老健にいがた

2023. 8 Vol.53

第53号



ケアプラザ見附
「元気いきいき体操」

目次

巻頭言	1	こんなことやってます!!～会員施設の取り組み～	11～14
特集:介護福祉士養成校の現状	2～7	みんなの広場	15
協会だより	8～10		

巻頭言

老健で逝った母

—— 思いに短詩を絡めて ——

新潟県介護老人保健施設協会

副会長 長谷川 まこと



私の母は今年2月、私が関係する老健施設で息を引き取った。満95歳であった。8年ほど前に父が亡くなってから母は私の隣家で一人暮らしをしていた。私の妻やお手伝いの方などのサポートを得ながらの生活であったが、いよいよ高齢となり令和3年頃からはショートステイなどを繰り返していた。だいぶ衰えが進みいよいよ在宅が困難となって入所となつてからは7か月程だった。

私は一人っ子で不器用な質だったので、小さい時などは手がかかったと思う。成人してからも、もっとこちらの年がいつてからも、母親というものは子供のことは気に掛けるものだと思う。そんな状況を私が数年前に詠んだ川柳が「ハンカチは持ったかの声母米寿」である。

そのように私は心配をかける方だったが、母の自立度が次第に落ちると今度は支える側に回る事となる。母は本当は住み慣れた家に長くいたい、できれば家で全うしたい、と思っていたようだ。施設のショートステイの予定が入り始めたころは認知症も生じていたので時間の観念がなくなり、真夜中に私のスマホが鳴り「まだ（ショートステイの）迎えが来ないがどうなっているんだ!」、などと怒り声で言ってきたりした。また、施設から迎えが来ると「突然来られても困る。用事があるから行きません」と利用を拒むこともあった。

結局、去年7月に入所となったが、入所してからなかなかなじめないこともあったようで身の回りの物をスタッフが管理上収納したりすると「ここではなんでもかんでも盗られてしまう」などと被害的になったりしていた。自宅でのサポートの限界も感じていた私は入所にホッとした気持ちはあった一方で入所の意味を十分に理解できなくなっていた状況の母を預けざるを得なくなったということに対して諦念のほか一種の哀しさ切なさ申し訳なさのような念も抱かざるを得なかった。そんな時、私は短歌を作ったがそれは「次々と凌霄花ノウゼンカズラ咲く夏にケアの施設に母は入りたり」。

その後は老健スタッフの皆さんの尽力で数か月安全に過ごすことができ私はとても感謝している。ただ気難しいところもあった母の本当の受け止めはどうであったかはわからないところでもある。

コロナ禍でもあり外出外泊等かなわぬな年を越し、少しずつ弱って食も細くなってきたとの報告は受けていたが2月の土曜の午前、急変したとの連絡を受けた。駆けつけると意識がなく、血圧も低下傾向であり、その後しばらくして息を引き取った。「老衰」であった。

母の最晩年は、最期は、あれでよかったか、一番良かったのか、それはよくわからないのだが、その後読んだ保険医雑誌の「死別と向き合うために」という特集に、宮子あずささんの文章が載っていた。宮子氏は看護師・コラムニストで、評論家の（故）吉武輝子氏の一人娘である。氏は緩和ケア棟の師長勤務、両親を看取った経験などから「(死という結果が出る以上) 後悔のない選択はない」「良かれと思ってやったことは、すべて許される」と述べておられる。

こういった文章を読んでいったん救われた気持ちにもなったが、それでもなお、どこか痛みが残っているものである。その心の痛みの残滓のようなものはなかなか消えそうもない。

今暇を見ては母の住んでいた家の片づけをしているけれど遅々として進まない。最近詠んだ歌である。「亡き母の手袋捨てるその中に温かき指ありし手袋」

介護福祉士養成校の現状

新潟県介護老人保健施設協会の会員施設でも労働力不足が深刻な問題になっております。

中でも介護福祉士は慢性的な不足の職種となっております。

今回は養成校の立場から、この問題に対し、長岡介護福祉専門学校あゆみの学校長 大平 和枝様からご寄稿をいただきました。養成校の現状や最新の教育カリキュラム並び老健施設と養成校との連携についてもご意見をいただきました。

今後の人材確保の一助となりますよう構成いたしましたので、ご高覧いただければ幸いです。

介護福祉士養成校の定員充足状況

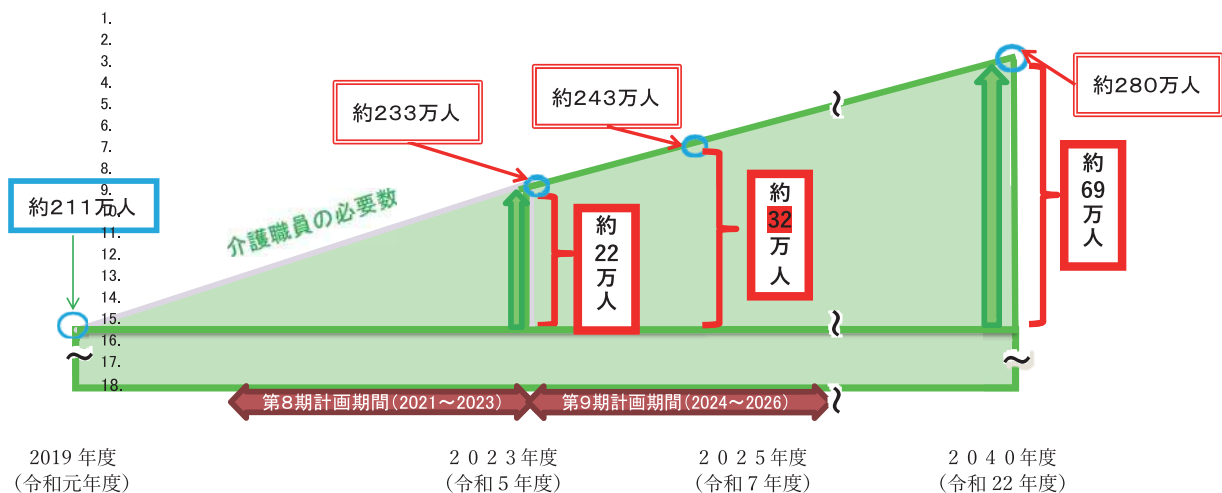
高齢化の進行とともに労働人口が減少する中で我が国においては、介護人材はますます重要な存在となっています。国は第8期介護保険事業計画に基づく介護職員の必要数を2025年までに32万人の介護人材を確保する必要があると発表しています。(資料1)

令和5年3月には日本介護福祉士養成施設協会に登録している養成校は全国で314校 定員充足率(資料2)も年々減少しています。新潟県内の養成校は新潟市内に2大学3学科、専門学校2校、長岡市内に4校の合計定員315名の登録です。これは10年前(定員630名)の半数であり、養成校の卒業生および国家試験受験者数は大きく減少しています。(資料3 令和4年度卒業生の受験者数及び合格者数)

資料1

第8期介護保険事業計画に基づく介護職員の必要数について

- 第8期介護保険事業計画の介護サービス見込み量等に基づき、都道府県が推計した介護職員の必要数を集計すると、
 - ・2023年度には約233万人(+約22万人(5.5万人/年))
 - ・2025年度には約243万人(+約32万人(5.3万人/年))
 - ・2040年度には約280万人(+約69万人(3.3万人/年))
 となった。
 ※()内は2019年度(211万人)比



資料2

介護福祉士養成施設への入学者数と外国人留学生
(平成30年度から令和4年度)

年度(平成、令和)	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度
養成施設数(課程)	386	375	347	327	314
入学定員数(人)	15,506	14,387	13,659	13,040	12,467
入学者数(人)	6,856	6,982	7,048	7,183	6,802
うち新卒者等	4,847	4,180	3,941	4,288	4,296
うち離職者訓練受入数	867	765	712	706	626
うち外国人留学生数(人・国数)	1,142(20)	2,037(26)	2,395(20)	2,189(28)	1,880(22)
定員充足率(%) [全体]	44.2	48.5	51.6	55.1	54.6

(注)養成課程数は募集停止校を含む。

資料3

令和5年1月 介護福祉士養成校(大学含む) 卒業生受験者数

全 国	受験者数	合格者	合格率
日 本 人	4,333	4,215	97.27%
留 学 生	2,151	1,083	50.34%
計	6,484	5,298	81.70%

新潟県	受験者数	合格者	合格率
日 本 人	142	142	100%
留 学 生	78	21	26.92%
計	220	163	74.09%

学生支援状況

介護福祉士養成校に入学するにあたり奨学金・給付金制度を利用する学生が多くいます。

新潟県社会福祉協議会介護福祉士等修学資金貸付制度は月額5万円(入学、卒業時20万円)の無利子貸与(卒業後県内の福祉施設に5年間従事すると返還免除)があります。令和元年より学生の世帯収入の上限金額が緩和されたことにより給付が受けやすくなりました。他にも無利子の給付金を利用でき、経済的には入学して学ぶ環境は整っています。またひとり親家庭の父または母が子育てをしながら学べる母子・父子自立支援金給付金制度を利用をすると、非課税世帯で月10万円が支給され、返済不要です。社会人入学生増加のためにも今後も学生支援が継続され多くの人が専門職を目指し学び、福祉現場で活躍してほしいと思います。

介護福祉士養成校のカリキュラムと教育内容

平成29年「求められる介護福祉士像」(資料4)に即した介護福祉士を養成するため、①チームマネジメント能力を養うための教育内容の拡充 ②対象者の生活を地域で支えるための実践力の向上 ③介護過程の実践力の向上 ④認知症ケアの実践力の向上 ⑤介護と医療の連携を踏まえた実践力の向上の観点から教育内容が見直されました。養成校は平成31年度から順次カリキュ

ラムの改正を行い、教育内容の充実に努めて参りました。地域共生の考え方や介護実践に必要な観察力と判断力及び思考力を養うことにより福祉チームの一員になれる人材育成を目指しております。介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応できる介護福祉士が求められています。「基礎学力」「専門知識」をもとにそれらを上手く活用する「社会人基礎力」が今後益々重要となります。

厚生労働省は養成校のカリキュラムを（資料 5）指定科目合計1850時間以上と定めています。各学校はそれ以外の科目を追加し、質の高いケアを提供できる介護福祉士育成を目指しています。実務者研修修了者の研修内容と比較すると養成校で在学中に学ぶカリキュラム内容は多岐にわたります。

資料4

求められる介護福祉士像

< 平成19年度カリキュラム改正時 >

1. 尊厳を支えるケアの実践
2. 現場で必要とされる実践的能力
3. 自立支援を重視し、これからの介護ニーズ、政策にも対応できる
4. 施設・地域（在宅）を通じた汎用性ある能力
5. 心理的・社会的支援の重視
6. 予防からリハビリテーション、看取りまで、利用者の状態の変化に対応できる
7. 多職種協働によるチームケア
8. 一人でも基本的な対応ができる
9. 「個別ケア」の実践
10. 利用者・家族、チームに対するコミュニケーション能力や的確な記録・記述力
11. 関連領域の基本的な理解
12. 高い倫理性の保持

社会状況や人々の意識の移り変わり、制度改正等

< 平成30年度カリキュラム改正時 >

1. 尊厳と自立を支えるケアを実践する
2. 専門職として自律的に介護過程の展開ができる
3. 身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる
4. 介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる
5. QOL（生活の質）の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる
6. 地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる
7. 関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する
8. 本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる
9. 制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる
10. 介護職の中で中核的な役割を担う



高い倫理性の保持

資料5

介護福祉士養成校カリキュラム

領域	内容	時間	科目名
人間と社会 (240)	人間の尊厳と自立	60	人間の尊厳と自立
	人間関係とコミュニケーション	60	人間関係とコミュニケーション チームマネジメント
	社会の理解	120	現代社会 社会福祉 社会保障
介護 (1260)	介護の基本	180	基本介護Ⅰ 基本介護Ⅱ
	コミュニケーション技術	60	コミュニケーション技術
	生活支援技術	300	生活支援技術
	介護過程	150	介護過程
	介護総合	120	介護総合演習(210)
	介護実習	450	介護実習Ⅰa(90)
			介護実習Ⅰb(200)
			介護実習Ⅱ(320)
のしくみとからだ (300)	発達と老化の理解	60	発達と老化の理解
	障害の理解	60	障害の理解
	こころとからだのしくみ	120	こころとからだのしくみ
	認知症の理解	60	認知症の理解
医療的ケア (50以上)	医療的ケア	50	医療的ケア(60)
(養成施設指定科目合計授業時数)		1850	本校 2110 時間
各校授業内容追加科目分		プラス	本校 360 時間
合計		1850 + 	本校 2470 時間

実務者研修（通信制）カリキュラム

領域	内容	時間
人間と社会 (40)	人間の尊厳と自立	5
	社会の理解	35
介護 (190)	介護の基本	30
	コミュニケーション技術	20
	生活支援技術	50
	介護過程	90 (45スクーリング授業)
のしくみとからだ (170)	発達と老化の理解	30
	障害の理解	30
	こころとからだのしくみ	80
	認知症の理解	30
医療的ケア (50以上)	医療的ケア	50 (演習スクーリング授業)
		450

あゆみ授業時間

実習施設との連携

学生は介護現場での実習を通し様々な気づきや思いやりの心、共感する大切さと喜びを経験し、一人の人間として成長すると共に、介護職の役割、責任、やりがいを感じその経験が学生の介護観の醸成を図る大切な場となります。

介護実習では地域における対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的能力や本人の望む生活に向けて、多職種協働の中で、介護過程を実践する能力を養うねらいがあります。学校で実習施設の特徴や役割、基本的な介護技術は学びますが、実習の段階によっては十分な知識・技術を習得しないまま実習に行く場合があります。このような場合、養成校では実習施設に学習の習得状況や学生の状況を連絡し、実習が実りあるものとなるよう努力しています。一人の実習生を中心に実習施設と養成校の連携が大切であると考えます。

学生は実習先で利用者個々の対応方法を見学及び体験することで「なぜ？」と考えます。介護現場は多忙な業務を行いながらの指導となりますが、理論的根拠に基づいた生活支援内容を丁寧に説明していただきたいと思います。実習生の理解力は様々であり「疑問点は質問してね」と言われてもどのように、またはいつ質問したらよいかわからず取り残されている学生がいます。学生の授業は実習指導者だけで行えるものではありません。実習指導者を中心に「施設職員全員で指導を行う」という共通認識で受け入れて頂けたなら実習施設全体のレベルアップにつながるものと考えます。学生が「介護の楽しさ」「介護の魅力」を感じたなら福祉の次世代を担う後継者です。さらに施設実習での学びは就職活動に大きく影響を与えていることも事実です。実習生や新規職員の受け入れ体制を整えることは介護人材の確保に大きな影響を与えると考えます。

今後、介護福祉士に求められる資質については、より専門性の高いものが要求されることから養成校卒業後のリカレント教育や事業所内の研修等も含め福祉事業所と養成校の協力・連携はかなり重要な課題と考えます。



校外実習 指導者の方々

前列 中央がご執筆いただいた 大平 和枝 学校長

長岡介護福祉専門学校あゆみ

平成21年 昼間週3日通学・3年制で25名定員の小規模な学校として開校しました。学生の経済的負担を考慮し、入学金なし、学費は定額月払いとしました。社会人が学びながら働けることを想定した体制です。また毎年2～3名のシングルマザーが入学し、子育てと学校での学習を両立しています。本校は母体の社会福祉法人の全面的な協力のもと、3年間で77日間の実習（厚労省指定より20日多い）を行います。実習の準備や振り返りにも授業時間を費やし、実習指導者との連携も大切に考えています。毎年、実習施設の指導者を一堂に会して情報交換会の実施や学生の実習報告会に参加していただき講評をお願いしています。またコロナ禍以前は様々な参加活動を企画・実施してきました。新潟県介護老人保健施設大会の聴講、ハンセン病療養施設や戦争資料館見学、国際福祉機器展見学など多くの体験が学生の人間形成に重要と考えています。

これから実務経験から介護福祉士国家資格をめざす方 今、働いている施設での仕事を続けながら本校で介護の楽しさを一緒に学びませんか？



福祉施設で働きながら学べます。

社会人の方も安心して学べる
週3日制授業

国家資格 介護福祉士
週2～3日働きながら学ぶことができます。
介護現場を経験することで、
確かな実践力・応用力が身に付きます。

介護福祉科（3年制）
定員25名
入学金・授業料はありません。※授業料は介護福祉士修学資金制度を利用することで心配いりません。（介護実務の年で全額返還免除）

AYUMI 長岡介護福祉専門学校 あゆみ
社会福祉法人 長岡三友老人福祉会
専任学務主任 介護福祉士養成施設
〒950-0001 長岡市横山1-7-1（駅が徒歩7分）（駐車場あり）
☎0258-31-2622 【E-mail】ayumi@nagokasanko.com



実習報告会の様子



理学療法士の指導による、実技指導（持ち上げない介護）



平成8年から協会役員としてご尽力いただきました、介護老人保健施設やまぼうし会長の馬場肝作先生が去る令和5年2月6日に永眠されました。

先生におかれましては、全国老人保健施設協会の理事並びに全国老人保健施設連盟の委員長を歴任され、新潟県のみならず、全国でも沢山の功績を残されました。
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

＜全国老人保健施設協会＞

平成30年6月～令和2年6月 理事

＜全国老人保健施設連盟＞

平成30年6月～令和2年2月 委員長

＜新潟県介護老人保健施設協会＞

平成8年度～平成9年度 監事

平成10年度～平成11年度 理事

平成12年度～平成23年度 副会長

平成24年度～令和3年度 会長（全老健新潟県支部長）

令和4年度 顧問

令和4年度臨時総会 開催

令和4年度 新潟県介護老人保健施設協会臨時総会が新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を鑑み、令和5年3月20日付にて、書面で開催となりました。総会時会員数89名のうち、書面表決書をご提出いただきました会員80名にて、定足数を満たしたことから本総会は成立いたしました。

第1号議案 令和5年度事業計画（案）について

第2号議案 令和5年度収支予算（案）について

それぞれ賛成多数により原案のとおり議決されました。

令和5年度通常総会 開催

令和5年度 新潟県介護老人保健施設協会通常総会が新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を鑑み、令和5年5月30日に、リモート形式での開催となりました。総会時会員数88名のうち、出席者11名、委任状をご提出いただきました会員68名にて、定足数を満たしたことから本総会は成立いたしました。

第1号議案 令和4年度事業報告（案）について

第2号議案 令和4年度収支決算（案）について

それぞれ賛成多数により原案のとおり議決されました。

令和5年度 事業計画

- 1 会 議 (1) 通常総会 規約第11条の規定に基づき、年1回開催する。
(2) 役員会 必要に応じて開催する。
- 2 委員会 (1) 事務長会委員会
(2) 学術研修委員会
(3) 広報委員会
(4) トラブル防止検討委員会
- 3 施設運営アンケートの実施 介護報酬改定等のアンケートを必要に応じて実施する。
- 4 研修事業 (1) 事務長会委員会 BCPセミナーの開催
(2) 学術研修委員会 アフターコロナに向けて（仮）
多職種による摂食方法、誤飲防止（仮）
ノーリフティングマネジメント研修会
(3) トラブル防止検討委員会
事故・トラブルの未然防止に向けた活動の一環として、ひやり・はっと事故
防止のアンケート調査・集計
トラブルの未然防止に向けた研修会の開催
- 5 機関誌の発行 広報委員会 機関誌「老健にいがた」第53号・第54号を発行する。
- 6 令和5年度新潟県介護老人保健施設大会 中止

研修会報告

ノーリフティングマネジメントオンライン研修会

令和4年度の学術研修委員会主催の研修会として、標記研修会が令和5年2月14日13:00～16:30オンライン開催で30施設70名の参加者で行われました。

今研修の講師としてナチュラルハートフルケアネットワーク代表理事下元佳子先生、株式会社モリトー会長森島勝美先生、ナチュラルハートネットワーク新潟ピースの皆さん並び福祉用具メーカーの皆さんからご講演をいただきました。

オンラインで参加された越南苑 理学療法士 片桐 優哉さんからは、

講師の先生方のご講演を拝聴して、ノーリフティングケアマネジメントは介護者の腰痛予防のみならず、利用者様の機能改善を促進し自立支援に繋げるマネジメントということを再確認出来ました。また、研修会の後半では『今後の各施設の取り組みについて』をテーマにグループディスカッションの時間が設けられており、他施設の現在の取り組みや今後の課題を知ることとで当施設にはない試みや考え方を知ることが出来ました。

とのご感想をいただきました。

ノーリフティングケアマネジメントの手法や福祉用具を活用した新しい介護やりハビリテーションを学び、腰痛予防対策、利用者様の自立支援の見直しが行われるなど、単に利用者様を移動させる手段だけにとどまらず、その目的達成には、法制度・企業 法人の利益・患者、利用者様の利益が合わさり、よりよい手法が生み出されるとのことでした。来年度は是非とも実践研修を実施し、よりスキルアップされるよう期待いたします。



オンラインで参加された越南苑の皆さん



中央会場 新潟ユニゾンプラザの様子



ナチュラルハートネットワーク新潟ピースからご協力いただいた
伊藤さん、松田さん

オリジナル体操で みんな元気に!!

ケアプラザ見附
理学療法士 山崎 達也

皆さんの施設ではどのような体操を行っていますか？当施設では「ケアプラザ見附元気いきいき体操」というオリジナル体操を作成し、ご利用者・職員ともに楽しんで取り組んでいます。

全職員参加のオープニングに始まり、リハビリ職員考案の体操、某国民的アニメのエンディングのような「ケアプラじゃんけん」で終了となります。動画は大型テレビに映し、みんなが参加しやすいよう座席の配慮を行うなど工夫して行っています。

ご利用者からは高評価を受けており、資料を持ち帰って自宅で行っている方もいます。身近な職員が出演していることが、ご利用者の興味を惹き運動意欲を高めているようです。また、職員もオリジナル体操をしている時の方が、ご利用者と関わりながら参加できており「やるだけ」にならない効果があると感じています。

今後は内容を修正・アップグレードしながら、ご利用者・職員みんなが、一層元気になれるオリジナル体操に育てていきたいと思っています。



「旬の食材を手作りで」を モットーに!!

さくら苑
管理栄養士 石附 貴代

さくら苑は「越後の小京都」と呼ばれる加茂市にあります。粟ヶ岳から流れる美味しい水を利用し、農作がとても盛んな地域です。利用者様も農作業に従事されていた方が多く、お食事を楽しみにされている方がたくさんいらっしゃいます。

そこで、行事や季節に合わせた特別食を月に4回提供しています。5月で紹介しますと、端午の節句・新緑メニュー・加茂祭り・選択メニューです。「選択メニュー」とは、めん類かご飯類を好みに合わせて選べる日の事です。また、利用者様に献立を考えていただく「希望献立」という日もあります。「オール洋食Day」「田舎料理Day」「野菜ざんまいDay」など、利用者様の発想は豊かで、日ごろ登場しない献立に「めずらしい!」と大好評です。

「旬の食材を手作りで」をモットーに、厨房職員も施設職員も利用者様の食べる楽しみを大切にしている施設です。



サンクス米山 「感謝」の取り組み

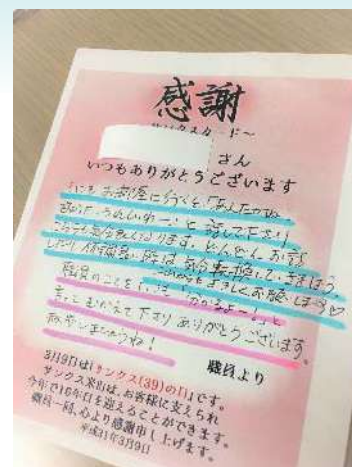
サンクス米山
作業療法士 森山 晋平

サンクス米山では、3月9日を「サンクスの日」と題し、利用者様に日ごろの感謝を伝えるイベントを開催しています。内容はその年によって、カフェを開き好みの飲み物を振舞ったり、足湯に浸かってもらうなど、楽しんで頂けるようなイベントを開催しています。また、利用者様一人一人に感謝の手紙「サンクスカード」をお渡しするのも通例となっており、介護職員やリハビリ職員が、普段一緒に過ごしている中で感じている感謝の思いを手書きでしたためて利用者様に贈ります。



この数年、当施設もコロナ禍の影響を受け、利用者様と一緒に毎年行ってきたイベント等ができなくなり、規模を

縮小して行うことが多々ありました。これからも、まだ油断できない状況が続いておりますが、サンクス米山では利用者様に楽しんでいただける催しを続けるとともに、地域の方々への感謝を大切にして、これからも様々な活動に挑戦し続けていきたいと思っております。



生活の中に楽しみを

白根ヴィラガーデン
介護支援専門員 笹崎 優子

白根ヴィラガーデンは新潟市南区の田園地帯・国道8号線沿いに位置し、今年の3月に開通した黒埼茶豆大橋が近くにあります。

入所者様は日々リハビリに励まれています。が、「日常生活の中でもっと楽しめる事は無いかな」を考えた結果、本棚を設置する事にしました。職員が持ち寄った本を「ヴィラ文庫」として置いたところ大変好評で、本を真剣に選ぶ姿・読む姿が見られるようになりました。最初は数冊だった本も今は50冊程になり、かなり充実した本棚になっています。脳トレやエッセイの本が人気です。また、2階の3ヶ所に週2回の頻度で人物・ことわざ・季節の話題等のクイズを掲示しています。掲示するとすぐに入所者様が見に来て下さり、裏面を見て答え合わせをしています。リハビリの認知訓練にも活かされているようで、クイズ作成にとってもやりがいを感じています。

何気ない毎日が少しでも楽しい毎日になるように、これからも工夫していきたいです。



音楽との触れ合いで 機能向上と笑顔をお届けしたい!

すこやか両津
理学療法士 濱西 智恵

音楽と触れ合うことで昔の懐かしい記憶を思い出すことや楽しい気持ちになったことはありませんか? すこやか両津ではリハビリの時間にカラオケを流しています。利用者様の中には好きな歌や十八番をリクエストしてくれる方、一緒に歌いだす方、音楽に合わせて運動する方がいらっしゃいます。年に一度カラオケ大会も行っています。利用者様はもちろん、職員の美声も響きわたります。音楽による刺激が良い影響を与えることも知られています。利用者様の機能向上の一助になればと考えています。

当施設では、令和元年より訪問リハビリ事業をスタートして、地域の住民に寄り添い一人でも多くの在宅介護で困っている要介護者の方、ご家族に安定したサービスを提供できる施設を目標として取り組んでいます。



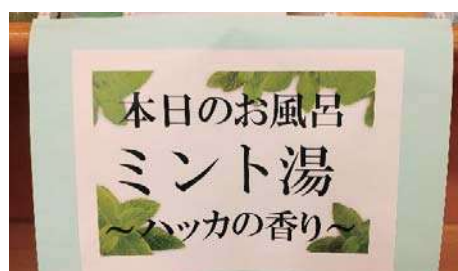
四季折々の行事

晴和会上所園
事務長 森戸 崇光

晴和会上所園は、新潟県庁のほど近く新潟市中央区の市街地に立地し、家庭的な雰囲気の中にご利用者様それぞれの趣味や求める生活目標などを多職種で共有し、ご利用者様が笑顔になってくださることをやりがい日々勤めに励んでおります。

昨今は新型コロナウイルス感染症の流行により、外出や面会などを制限せざるを得ない状態が長く続いておりました。その様な状況でも、ご利用者様が季節の移り変わりを感じ、心地よい日々を過ごしていただけるよう、当施設では様々な行事を開催しております。なかでもご好評をいただいているのが秋の味覚祭です。味覚祭では「サンマの炭火焼き」が恒例です。ご利用者様の目の前で焼かれるサンマは炭火の効果もありふっくらとジューシーに焼き上がり、独特の香ばしい香りが食欲をそそります。

そのほかにも季節ごとの変わり湯など、日々の生活に潤いと喜びをもたらすことのできる活動を継続してゆきたいと考えております。



雪椿の知らせ、 再会(再開)憩いの場

三川しんあい園
作業療法士 長谷川 将義



阿賀町は新潟県の東部に位置し、多くの山々と森林資源、大河・阿賀野川と清流・常浪川に恵まれた、水と緑の美しい町です。阿賀町のシンボルとなっている雪椿。100年以上前に麒麟山で初めて発見、命名されました。

当園自慢の足湯は、雪椿が開花する3月末頃より開始。足湯は誰でも簡単に行える体活性作業です。足湯に浸かり、眼前に広がる四季折々の風景や野鳥の声で季節を感じながら、他者との会話を楽しみ、心と体を癒していただい

ていました。しかしコロナ禍でしばらく規模を縮小せざるを得ず、今年4年振りに以前のように再開し、足湯場では賑やかな声が再び聞かれるようになりました。長い施設生活の中で、少しでも多くの利用者様に足湯を通して自然に触れ、四季を感じていただき、他愛のない会話が憩いのひと時を過ごしていただければと思います。



食事を最後まで楽しむために ～新潟市口腔保健福祉センターとの関わり～

緑樹苑
言語聴覚士 難波 大輔

緑樹苑は、新潟市中央区神道寺に位置し、今年で35年を迎えます。入所者は、平均年齢85歳と高齢な方が多く、高齢化や身体機能の低下に伴い嚥下障害を有す方も多いです。嚥下障害は、食事形態の調整や水分にトロミを付けるなどで安定することはありませんが、中には症状が複雑化し、誤嚥を防げないことがあります。



そのような場合、当苑では新潟市口腔保健福祉センター（以下、口腔センター）に往診を依頼しています。口腔センターは、新潟市が設置した施設であり、新潟市歯科医師会が管理運営を行なっています。口腔センター所属の歯科医師と歯科衛生士が施設に往診し、入所者に対して口腔状態の確認や嚥下内視鏡（VE）での嚥下機能の精査を行い助言や指導を行ってくれます。

往診してもらうことで、入所者の嚥下機能の精査を行うことができ、より状態に応じた食事方法を提案することができます。当苑では、往診を利用したおかげで、経口摂取困難と言われていた方が安全に食事を続けられるようになったり、経管栄養で栄養管理を行っていた方も楽しみで経口摂取を続けられるようになったりしています。食事は生きる上で必要であり、また、楽しみでもあります。今後も入所者の食事が人生の最期の時まで安全に楽しみながら行えるように取り組んでいきたいです。



み

ん

な

の

広

場

ケアプラザ見附

ご利用者と作成したイチゴ畑です。折り紙で作ったイチゴを飾り付け、鑑賞を楽しんだ後はみんなでイチゴ狩り!!皆さんに塗ってもらったぬり絵も飾り、壁全面にイチゴ畑が広がっています。



さくら苑

男性入所者様の作品です。入所されるまでは、ご自宅裏に工房を作り、竹細工やわら細工をされていたそうです。毎日紐を編むところからコツコツ作業され、最近では職員も教えてもらいながら一緒にわらじを編んでいます。



サンクス米山

文化祭にて癒しをテーマに当施設2階に水族館を作りました。その中でも特に目を引くのがリュウグウノツカイです。お互いに声を掛け合い作成する姿が印象的でした。飾られた後も感想を共有され良き時間となりました。



白根ヴィラガーデン

通所の利用者様が作ったうさぎの編みぐるみです。毎年干支の作品を作られています。フロアには折り紙で作った作品を飾っています。手先が器用な利用者様方が談笑しながら折り方を教え合いフロアは憩いの場となっています。



すこやか両津

利用者様が施設生活の中で余暇時間を利用してお部屋で個人の趣味活動の貼り絵を楽しまれています。今年は、兎年にて昨年末よりお部屋で大作に取り組まれていました。後日、完成した作品は、談話室の廊下に貼り出し、利用者様や職員の記念撮影の場所になっています。



晴和会上所園

通所リハビリテーションのご利用者様が、文化祭用に作成された共同作品です。様々な落ち葉を模した色紙を、位置や配色を考えながら貼り付けてゆきます。目に見えぬ風の動きすら感じられる作品に仕上がりました。



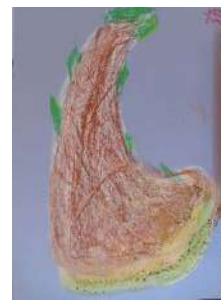
三川しんあい園

通所リハビリご利用者様の作品です。40歳代で左片麻痺を発症後も大工作業を趣味以上、仕事未満として取り組んできました。「しんあい神社」には今日も沢山のご利用者様が手を合わせ健康をお祈りしています。



緑樹苑

通所リハビリテーションに通われているご利用者様(96歳)の作品です。今春描いた、画面いっぱいの少し曲がった「筍」です。大胆かつ迷いなくさっと描かれる作品にいつもスタッフは驚かされます。



編集後記

皆様のご協力により「老健にいがた」第53号を無事に発行することが出来ました。

お忙しい中、原稿依頼に際しまして快く承諾いただきまして厚くお礼申し上げます。

新型コロナウイルスも5類となりましたが今年も新潟県介護老人保健施設大会は中止となってしまいました。色々と準備を進めてきた施設もあったと思います。我々広報委員会もとても残念に思っています。来年こそは開催出来ることを願っています。

まだまだ暑い日が続いています。こまめに水分補給などしてこれまで以上に体調管理をおこなっていきましょう。

(広報委員一同)

新潟県介護老人保健施設協会広報誌

「老健にいがた」第53号

編集・発行 新潟県介護老人保健施設協会
広報委員会

〒945-1392 新潟県柏崎市大字茨目字ニッ池2071番地1
介護老人保健施設米山爽風苑内
TEL (0257) 22-0111
FAX (0257) 22-0112

URL <http://niigata-rouken.org/>

印刷 野崎印刷株式会社